

おお大勝利

令和5年度 山東サッカー一部報第8号 (10月31日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県新人も明正の前に屈する

10月28日(土)は県新人2回戦鶴岡中央との対戦。どちらも初戦ながらどちらも1回戦シードで、2回戦の対戦となる。鶴岡中央とは久しぶりの公式戦。会場は上山明新館高校。

試合が始まると、キック力と競り合いで勝る山東が押し気味。非常に軽やかな崩しで**2年アユム**が抜け出し、前半8分に先制。押し気味で点が入らないと嫌な雰囲気になりますが、すぐ楽にしてくれた。でも、いつも競った試合にしてくれる山東の諸君。前半17分、シュート性ではなくふんわりとゴールに向かったボールに対して、前に出ている1年GKがたどたどしくバックステップ。レベル的には何でもないボールでしたが、経験の浅い山東GKは取ることができず後逸し、そのままゴールイン。まあ、**覚悟はしているのに驚くことではないが、2年生GKともども、早くレベルアップしてもらいたい。**とまあ、同点にはなったが、山東の攻勢は変わらず。前半のうちに勝ち越して、後半も開始直後に得点し、3対1に。そのスコアの時間が長かったが、「セットプレーからヘディングで決めなさい」と試合前に顧問から求められていた**190cmの大型ボランチ1年リユーヤ**がとうとうCKをヘディングでたたき込み、**結局4対1**の勝利となった。勝つには勝ったが、縦パスに対するFWのトラップミスが目立ち、もったいないシーンが多かったし、強引にシュートまで行ってほしい所を行ききれないシーンも目立った。もちろん左足(逆足)が満足に使えず、有効なプレーができない選手も多い。守備も課題だが、ボールを持った時のプレーに課題が多く見えた試合だった。

3回戦の相手はいよいよ全国高校サッカー選手権大会に初出場することとなった山形明正。山東は選手権2回戦で0対4で敗れている。選手権のメンバーは8人が1・2年生(攻撃陣はすべて1・2年生)なので、新人チームも強いに決まっている。ただ、山東の選手には、「選手権は全国までつながる一発勝負の大会だから、実力差を踏まえ5バックで(1トップで)リトリートしたけど、県新人は相手をリスペクトし過ぎず、前からガンガン行くし、2トップで行くぞ」と方針の変更を伝えていた。**さわやかに大敗するかもしれないし、大方の予想を裏切る結果となるかもしれない。**とにかく、**選手権の時のように時間稼ぎのような試合運びはしたくなかった。**結局、そうしたやり方でゴールを守れるものでもない。逆に、スキルのある明正の選手に余裕を与えて勢いづかせるだけかもしれない。だったら、やられることを恐れず、局面の勝負をしっかりと挑むつもりだった。会場は明正の人工芝。

試合が始まると、ビルドアップの明正、それをはめに行ってショートカウンターを狙う山東といった典型的な構図で試合が進む。佐竹コーチが監督をしている山大医学部サッカー部と水曜日に合同練習をして、ビルドアップをとがめる練習をした成果が出ている¹。ボランチやFWによる前へのアプローチだけでなく、**相手を後ろから追いかけるディフェンス**がよく効いている。特に**2年ボランチのケンヤ**は相手のニアサイドの中盤の選手を自由にさせないディフェン

¹ 部員数の少ない山大医学部がビルドアップの練習をしたいというので、それをとがめる練習がしたい山形東と求めることがピッタリ合ったのでした。

スができており、ケンヤのところで奪うシーンが印象的だった。また、最終ラインでは、**1年左CBタケハル**の安定感はたびたびこちらで触れているとして、**1年右CBハヤト**のパフォーマンスも前日より良く、全体として山東が積極的な守備がしっかりできていた。そんな試合の入りを経て、**前半10分2年右SBホスト**の斜めの縦パスを苦しい体勢で収めた**2年FWソータ**が左にいる**2年FWショーゴ**にスルーパス。抜け出したショーゴが冷静にサイドネットに決めて、**山東の鮮やかな先制!** ソータは球離れの悪いところ（要は持ちすぎること）が課題だったが、鶴岡中央戦といいこの試合といい、シンプルに味方を使うシーンが多く、成長が見て取れた²。チャンピオンチーム相手に先制し、さぞギャラリーは湧いたことでしょう。そして、その直後の前半14分、相手がGK、FP間でビルドアップするところを**2年ボランチリューヤ**がインターセプトし、そのままゴールに流し込み、**2対0**にする。「恐れず行くぞ」とは伝えていたものの、選手が躍動している。もちろん、ボールを握られる時間は断然相手の方が長い³、幾度となく危ないシーンを作られるも、何とか前半粘り強く守り、2対0で折り返す。**佐竹コーチ**が前半2対0で折り返す夢を見たそうだが、正夢となる。

後半は山東が押し込む時間が少なくなり（ということは明正のビルドアップを高い位置ではめるディフェンスをする時間が少なくなり）、山東サイドで耐える時間が続く。奪っても、すぐ相手に奪われる。ただ、耐える時間が長いのは前半と同様。でも、やりたくなかった（選手権と同じ時間稼ぎのような）試合運びになっちゃったな〜とつまらなくは思っていた。**もっと3点目を取りに行くプレーが見たかった。後半10分**にとうとう失点し、あとはヒヤヒヤ。山東守備陣も疲労の色濃く、一杯いっぱい。明正のシュートが運良く外れることが多いのに助けられる。後半30分過ぎから（残り5分からは逃げ切りを意識し、サイドの高い所でボールを保持して時間を稼ぐプレーも出始めた。こうなったら勝負に辛く、ルール上やれることはやる。しかし、これがチャンピオンチームの執念というものか、**アディショナルタイムに入ったところでとうとう失点**してしまい、**2対2で同点のまま延長**へ。後半は0対0との佐竹コーチの夢は幻となった。

もう守備で疲弊していたし、もうすぐ終わると思ったところからの延長戦で、山東の選手にとってメンタル的にきついものがあった。何とかみんなで声掛けし、気持ちを切り替えて臨み、延長も19分スコアレスのまま戦った（守った）。**PK合戦の雰囲気出てきた延長後半残り1分、とうとう逆転**を許す。アディショナルタイムにも失点し、結局終わってみれば**2対4**の順当なスコアで終了。

何かこれ書いてても、悔しいなあ。「惜しかったね」の言葉なんて、いらぬんですよ。ともかく、勝ち切れなかったのは実力の問題。3点目取れなかったのも実力の問題。**1年左SBケンゾー**は責任を感じて試合後涙が止まらなかったが、チーム全体の力不足です。唇をかみしめながら、冬場のトレーニングに向かいます。11月18日、19日、23日の地区1年生大会は残ってました。応援よろしくお願い致します。

11月18日(土) 村山地区1年生大会1回戦 VS 山形南B @山形明正 13:00~

それに勝つと翌19日(日) 同2回戦 VS 学院と明正Aとの勝者 @山形商業 11:30~

² ただ、鶴岡中央戦では、前を向いた状況でもパスを選ぶ（シュートに持ち込まない）シーンが目立った。前（ゴール方向）を向けていたら強気に（自分で）、ボディシェイプが悪かったら（ゴール方向を向くことができなかつたら）シンプルに（味方を使う）、というメリハリが欲しい。

³ 山東はボールをさらすドリブルしかできない選手がほとんど。体を入れながら左右の足でボールを続けるスクリーンプレーが身につけている選手（運ぶドリブルのできる選手）が、少ない。アタッカーで若干できるのはソータくらい。あとは利き足でしか保持できないし、長い時間保持し続けられず（方向転換すると逆足で保持しなければいけないがそれができず）、無用に焦る。メッシのように片足でそれができてしまう天才はいますが、われわれ凡人は左右で持てないとまず保持できません。